

広島県
アートセンター
サポート

令和5年度

広島県障害者文化芸術
活動支援事業報告書

2023 Report on
Supporting Disability
Arts and Cultural
Activities in
Hiroshima Prefecture

令和5年度 広島県障害者文化芸術活動支援事業について

施設と事業所においては、様々な事情から「福祉事業内の業務以外の支援はしない」と言われるところと、障がいのある方の表現を大切に、社会とつながる活動として取り組むところの二極化が進んでおり、本事業の参加者も固定化してきていると感じています。また、表現活動の場やサポートが得られない本人(当事者)からの相談も増加しています。そのことから今年度は、以下の3つの目標に焦点を当て、事業実施に取り組んできました。

1. 支援者や関係者の表現活動に関するスキル向上を支援し、障がいのある人々が個性と能力を発揮する機会を増やす。
2. 誰もが文化芸術を享受し、多様な文化芸術活動に取り組むことができるよう、支援者や関係者のネットワークを整える。
3. 広島県内で、多様な表現の裾野が拡大する。

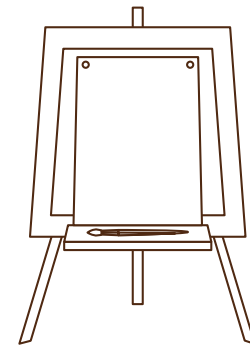


専門家派遣の様子と作品▲ アーティストに会いにいった撮影の様子▲



アートセミナー&座談会の様子▲

目次 Contents



令和5年度 広島県障害者文化芸術活動支援事業について	2
(1) 広島県アートサポートセンターの運営について	3
(2) 普及啓発・情報発信事業の実施	3～4
(3) 人材育成事業の実施：	
アートセミナー&座談会	5～8
助成事業「アートの巣箱」	9～11
表現を楽しもう「アーティストに会いにいった」	12～13
人形劇「一寸法師とお楽しみ交流会」	13～14
(4) 創作活動支援事業の実施：	
文化芸術活動体験ワークショップ「書道を楽しもう」	15～16
障害福祉サービス事業所等への専門家派遣事業	17
(5) その他障害者文化活動の振興に資する事業：	
遠隔ロボットを使った鑑賞会 in アート・ルネッサンス	18
第3回みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会	19
広島県立美術館紹介動画の制作	20
画材寄付プロジェクト・ネットワーク構築	21～22
(6) その他協力依頼対応	23～24
(7) 相談	25～26
1年を振り返って(総括)	27

(1) 広島県アートサポートセンターの運営について

ア) アドバイザーの設置

障がいのある方、サポートしている方の多様な文化芸術の創造、鑑賞等に資するため、普及啓発・情報発信事業、人材育成事業、創作活動支援事業、相談業務等、アドバイザー（相談員）を2名（うち1名は兼務）とサポートスタッフ1名（兼務）を配置し、サポートセンターの運営、相談対応を行いました。

イ) 認知度の向上対策等

広島県アートサポートセンターの役割と認知度向上を目指し、昨年度作成したパンフレットを活用し、福祉サービス事業所や文化施設、サポートセンターの自主事業およびサポート事業の際に配布しました。さらに、各種事業のお知らせや報告などはホームページやソーシャルメディア（Facebook、Instagram）を通じて広く公開しました。

今年度は、公益財団法人ひろしま文化振興財団から依頼を受け、文化施設スタッフを対象としたセミナーで広島県アートサポートセンターの事例報告をしました。

情報収集については、事業後のアンケートやサポーターが集まる場で、ニーズ（活動要望）など聞き取りを行いました。

(2) 普及啓発・情報発信事業の実施

ア 作成したホームページの管理運営

委託業者と連携しながら、ホームページの管理運営を行いました。

イ 障害者文化芸術活動に関する情報の収集・発信

広島県内外で開催される関連事業の情報をチラシ、メール、ソーシャルメディア（Facebook、Instagram）などで収集し、ホームページやソーシャルメディアを通じて広く発信しました。久蔵寺やアビリンピックなどのイベントにおいて、あいサポートアート展やピースアートプログラム アート・ルネッサンスに入選したアーティストの作品展示を行い、地域にお住いの方や芸術活動に取り組んでいない方に作品を紹介しました。また、様々な方々に表現活動に関する情報が届くことを目的として YouTube チャンネル「ひゅるりんぱ」を開設し、情報発信に努めました。アートに関する権利の普及については、「障がいのある方の権利に関する Q & A ハンドブック」「障がいのある方の権利に関する Q & A ハンドブック②」などの資料の配布を行い必要な方には、相談にて対応しました。

【年間発信数】

ホームページ 185 件、Facebook 218 件、Instagram 48 件 合計 451 件

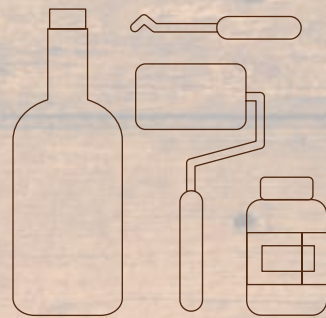
【アクセス数】

ホームページ 45,790 件、Facebook 9,414 件、Instagram 1,476 件
合計 56,680 件

【YouTube 番組「ひゅるりんぱ」視聴数】 1,438 件

「障がいのある方の権利に関する Q & A ハンドブック」

「障がいのある方の権利に関する Q & A ハンドブック②」
ハンドブック申込数 5 件



ひゅるりんぱの撮影の様子▲



アビリンピックの作品展と久蔵寺での展示の様子▲

〔成果〕

昨年度に比べて、ホームページへのアクセスが増加し、厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業連携事務局のホームページへの掲載が効果を示しています。YouTube 番組「ひゅるりんぱ」の登録者数やインスタグラムのフォロワー数はまだ多くありませんが、コアなファンが増加し、「毎回とても楽しみにしている」「欠かさず見ている」といった肯定的なフィードバックを得ています。

〔課題〕

以前に比べ、ホームページやソーシャルメディア、YouTube を閲覧・視聴される方は、増えていますが事業への参加までは至っていない現状があります。それは、参加するための手続きやアクセスの問題、サポート環境が影響していると考えます。

今後「ひゅるりんぱ」については、視聴者とのやりとりができる双方向性を取り入れるようにしたいと思います。さらに、より多くのメディアや手段を活用して、情報発信の範囲を広げるとともに、参加しやすい環境づくりの必要があると考えています。

(3) 人材育成事業の実施

ア アートセミナー&座談会 ～もしも～

支援者や関係者が表現活動に関する知識を習得し、支援スキルを向上させるとともに、文化芸術を享受する感性を高めることを目指しました。障がいのある方が個性と能力を発揮する機会を増やすことを目的に、現場で起こりうる課題をテーマにしたセミナーを実施しました。

●アートセミナー & 座談会1

～もしも「新しい表現活動をしたい」「絵を描きたくない」と言われたら

【実施日】2023年8月5日(土)

【場 所】東広島芸術文化ホールくらら 工作室(東広島市)

【内 容】太田川学園の事例を通して、表現活動のサポートをする環境づくりについて考え、創作現場に関わる権利について学びました。

【講 師】(取り組み発表)太田川学園 アートディレクター 羽鳥 智裕 氏

【講 師】(権利保護について)弁護士 三浦 友美 氏

【参加人数】支援者5名



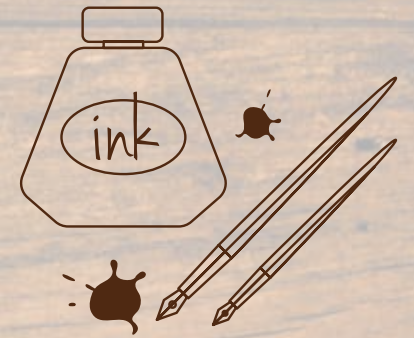
～アンケートより～(原文のまま)

Q. 太田川学園の取り組みを聞いて印象に残っていることや感想がありましたら教えてください。

- ・最初は一人だった利用者への支援が全体へ広がっていったこと。今日のお話は、作品紹介を通じているんな作品や利用者さんと出会い関わってこられた経緯がわかって、親しみやすかったですー。これからもご活躍応援しています!
- ・とても興味深い内容でした。知的な障がいのある方の才能を見つけることができる、それを広めることができるのは素敵だと思います。もっとたくさんの人に見て聞いてほしいと思いました。その絵画を観ることで、そういう子供や人たちがいること、その子供達の置かれている環境や現状、その障害としている事柄についてを知ってもらい、考えてもらいきっかけにしてほしいと思いました。



アートセミナー&座談会1の様子▲



●アートセミナー & 座談会2

～もしも「絵が欲しいよ(買いたいよ)」と言われたら

【実施日】2023年9月5日(火)

【場 所】ウッドワンさくらびあ 会議室(廿日市市)

【内 容】アートスペースからふるの事例を通して、作品の可能性を知るとともに、発表や二次利用の際に気を付けるポイントを学びました。

【講 師】(取り組み発表)アートスペースからふる 理事長 妹尾 恵依子 氏

【講 師】(権利保護について)弁護士 三浦 友美 氏

【参加人数】支援者10名 一般1名 合計 11名

※セミナー&座談会2は、鳥取県あいサポートアートセンターと協働で実施しました。

～アンケートより～(原文のまま)

Q. 印象に残っていることや感想がありましたら教えてください。

- ・保護者、ご本人とアセスメントを行うときに、きちんと書面の交付と説明をして納得をして頂くことが大切だと感じました。
- ・原画の販売など、サイズの大きいものや賞をとった作品の扱いは複雑になること。大きいものはそのままのサイズで複製原画にするのも難しいので、リサイズしてサイズダウンするのも方法論としてはあり、というお話は参考になった。運営は柔軟な対応が必要だということが改めて分かった。
- ・三浦様の「著作権侵害」とはどのようなことか?などの具体例、著作人人格権の尊重、障がいのあるアーティストさんの制作物が、誰かの権利を侵害する側になっていないか確認することが重要 というお話がとても参考になった。



アートセミナー&座談会2の様子▲

アートセミナー & 座談会3

●もしも「書道がしたいよ」「きれいな字が書きたいよ」と言われたら

【実施日】2023年11月11日(土)

【場 所】広島市東区民文化センター 美術工芸室 (広島市東区)

【内 容】書道をサポートする際に必要なポイントを学びました。

【講 師】広島大学 大学院人間社会科学研究科・教授 教育学部 副学部長 松本 仁志 氏

【参加人数】支援者3名

～アンケートより～ (原文のまま)

Q. セミナーを聞いて印象に残っていることや学んだこと、感想がありましたら教えてください。

- ・「書道がしたい」と言われたときの取り組み方がよく分かりました。水書を利用してみたいと思います。
- ・書道について、筆の種類など何も知らない状態でしたので、直接先生に相談ができて、とても分かりやすかったです。文字を書く練習、緊張を解いて書道を行うためには、水書が良いというアドバイスを聞いて良かったです。ぜひ、リハで実践してみようと思います。

Q. 今後、あれば参加したいな、面白そうだなと思うセミナーやワークショップ等がありましたら教えてください。

- ・書道のセミナー 松本先生のセミナーをまた楽しみにしています。
- ・面白いことがあれば何でもいいのでお願いします。
- ・演劇と福祉、表現×歌×運動 で健康維持につながるセミナー 体験してもらえるワークショップ コロナが落ち着いたので、ちょっとずついろんな人と交流していくセミナーやワークショップができればいいと思います。
- ・さおりおりたいです。
- ・織りの世界もやってみたい。さおり



アートセミナー&座談会3の様子▲

アートセミナー & 座談会4

●もしも「アートって何?」って言われたら、そして思ったら

【実施日】2023年12月1日(金)

【場 所】合人社ウエンディひと・まちプラザ 研修室C (広島市中区)

【内 容】「ぬかつくるところ」の取り組みを通して「アートの考え方」についてみんなで考えました。

【講 師】ぬかつくるところ 代表 中野 厚志 氏

【参加人数】支援者6名 一般3名 合計 9名

～アンケートより～ (原文のまま)

※ぬかびとさん=ぬかつくるところの通所者

Q. 印象に残っていることや感想がありましたら教えてください。

- ・「※ぬかびとさんが1日をどう楽しむか」を一番に大切にいらっしゃることに、やりたいことだけでなく、(やりたくないことを)しないことを大切にされることに、ステキだなと思いましたし、自分もそうありたいなと思いました。
- ・おもしろがる、だじゃれで訓練しないといけませんね。日々の積みかさねが、ネーミングセンスに反映されているなあ~と思いました。「そのうち」なるというのがいいなと思いました。ぜひ、使っていきたいです。
- ・話をうかがっていると、いろいろなアイデアがうかんできました。ありがとうございました。
- ・一貫した考え方でやりつけてこられたのだなと感じました。
- ・「そのうち」をたくさん使って生きていきたいと思いました。
- ・スタッフも楽しむことが大切、これは家族であっても同じだと思いました。これから楽しんでやっていこうと思います。

[成果]

アートセミナー&座談会を通じて、支援者や関係者が表現活動に関する理解を深め、新しいヒントを得られたので、支援スキルの向上に対する意欲が増すきっかけをつくることができました。また、色々なテーマで語ることで、新たな関係性が生まれ、深めたりする機会になりました。参加者からのフィードバックを受け、今後のセミナーの改善点を把握しました。

[課題]

前年度のアンケートを参考に、現在その活動に注目が集まっている「ぬかつくるところ」に関するセミナーでしたが、ふたを開けてみると参加者が少なかったです。現場が多忙になり研修への参加が難しくなっているとの声も聴くので、今後は録画配信も必要に応じて取り入れつつ、視聴、参加者の増加につなげたいと思います。



アートセミナー&座談会4の様子▲

イ 助成事業「アートの巣箱」

地域で障がい者の芸術文化活動を応援する人が増えることを目指し、地域で表現活動に取り組んでいる1団体を助成し、活動のサポートを行いました。

インクルーシブダンス「集まれ!ぼくらの星ここにいるよ」

【助成金交付先】 ART COMPLEX HIROSHIMA

【実施日】 2024年1月12日(金)～1月14日(日)

【場 所】 JMS アステールプラザ 1F ギャラリー (広島市中区)

【内 容】 ダンスワークショップ

【参加人数】 本人4名、支援者・サポーター8名、一般5名 計17名

主催：ART COMPLEX HIROSHIMA

協力：KAZOO

助成：令和5年度広島県障害者文化芸術活動支援事業



○ 概要

障がいがある方と健常者がひとつの空間で時間を共にし、互いに肯定的な経験を積み重ねていくことを願い、年齢、性別、障害など枠を越えたインクルーシブなワークショップを開催しました。みんなで一緒にダンスや衣装を作る時間を共有することで、連帯感や達成感を体験すると共に、他者理解や合意形成することを目的としました。

○ 具体的なプログラム

- みんなでアート、ダンス、衣装、小道具、会場、背景(舞台美術)を作って発表。
- ① 絵本を鑑賞した後絵本からもらったインスピレーションから、絵本の読み解き
 - ② 絵本で紹介されている宇宙と地球のシーン創りをする。
 - ③ 場面ごとに別れ創作ダンスを考える。
 - ④ 会場作り=巨大な地球をアクティグエリアの中央床に作る。
中央に作られた地球から4方向に宇宙と地球の世界が繰り出される様に舞台美術を作る。
 - ⑤ 舞台美術作り=『ほら、ここにいるよ』をイメージした絵やオブジェで会場を飾り付け。
 - ⑥ 衣装作り=アクリル絵の具を使い持参した服にペイントして衣装作り。
 - ⑦ 小道具作り=様々な小道具を使って宇宙と地球を表現。
 - ⑧ 発表会=『ほら、ここにいるよ』を読み進めながら、パフォーマンス発表を行う。

○ ワorkshopと発表会の成果

身体で表現することは、心を浄化し多くの気づきをもたらします。その結果ワークの最初と全て終了後の顔が全く違い、心からの自然な笑顔が見られました。

開催する前は障がいのある方の踊るシーンは2つか3つくらいにしようとプランを立てていました。しかし参加者さんが積極的に踊りたいと意思表示をされたので、当初計画していた場面よりも沢山の出演になりました。障がいのある方と健常の小学生の参加が多い中、素晴らしい集中力で発表会を無事終えることが出来たこと、本番のパフォーマンス力の凄さはお客様を圧倒するくらいエネルギーいっぱいでした。

ダンスを一緒に創ったり踊ったりしていくにつれ、障がいのある方と健常者の垣根が自然に取れていきました。終了後は暖かく調和に包まれた雰囲気がとても良かったです。

発表会は感動的な発表が出来て親御さんにも大変喜んで頂きました。また発表会を観に来られたお客さんからも高評価を頂き開催側としては嬉しいことでした。

○ 課題や反省

障がい者と健常者のインクルーシブを目的とした、アートとダンスとの融合に関しては申し分無いくらいの成果物があつたワークショップでした。

二つ目の目的、インクルーシブなダンスも目指しました。参加者の中には健常の子ども達も数人参加していました。彼女らにとって障がいのある方は日常生活で接することがあまりなく珍しい存在で、見た目もエネルギーも違いますか

ら、お互いと一緒に手を繋ぐことや触れたりすることがあったときに戸惑う姿が態度に出ていて、それを障がいのある子たちが敏感に感じ取っている様子でした。身体を交えてワークをするにつれ氷が溶けるようにお互いが緩んで行きました。

今回を通して思う課題は、障がい者と健常者の子どもが混じり合っ、お互いを知るトレーニングがこれからの未来に向けて必要だと感じました。健常者の子どもと障がい者が同じラインに立ち共同作業をすること。しかも重要なのは身体を使っての協働作業をする機会を持つことです。なぜなら互いの心身の開放が早いからです。これはとても大事なことで、身体を用いたコミュニケーションをすることで本当の意味で多様性を理解できる社会になるのではないかと思います。

○ 今後の活動予定や展望

福祉関係のワークショップは助成がないとなかなか大きな催しが出来ない状況があります。こじんまりではありますが、それぞれの人達が、自分がイメージするダンスを自由に踊ることで、心身が開放され浄化されたり、機能回復のトレーニングにもなりますので、障がい者の為の身体ワークショップは機会があればやり続けたいと考えています。

今まで様々なダンスワークショップを企画したり指導させていただいていますが、どうしても健常者の表現ワークショップ、障がいのある方の表現ワークショップと二分化されてしまい、交わって一緒にダンスのワークをしたり創ったり発表したりと言うのは機会を作らないとなかなか無いと改めて感じました。もちろん障がいのある方の表現ダンスは大切ですが、新たな目的として、身体を用いた「交わるダンス」は健常者と障がい者の互いが寄り添っていくためのトレーニングであると考えますので、具体的なことは予定していませんが新たな展望として持てそうです。



～アンケートより～（原文のまま）

Q. 今回のワークショップの感想を自由にお書きください。

- ・金土日と参加させていただいた。絵本の読み解きから始まり、抽象的な場面が多くどう表現に繋げていけるのか、すごく不安だったがだんだん先、流れが見えてきたことに驚いた。本番までには緊張もとけて楽しんで参加できた。ありがとうございました。
- ・2日目から参加しました。環境が整えられていたので絵本の世界にすぐに入ることができました。決まっていることが限定されているのでみなさん自由に動かされていて、とても楽しかったです。参加者のみなさんの笑顔もすてきでした。
- ・衣装や会場づくりで創作する楽しさの土台ができました。子どもたちや他の参加者たちとどどん目合い笑いながら作り、触発してワクワクしながら想像力やイメージふくらむ体験ができました。
- ・間に合うかハラハラでしたが、参加者のみんなが本当に楽しみながら覚えてくれてよかったです。あっという間の3日間でした。
- ・時間に追われる感じだったが、気がついたら作品になっていた。多様な方達が交わって楽しく舞台が作れたと思いました。ありがとうございました。
- ・1人じゃないんだよ。と最後に語りかけられるところが息子だけでなく、この絵本をみた全員に言っているようにいろんな思いや考えが出てくるWSでした。たのしかったです。つかれました。
- ・楽しい時間をありがとうございました。初めて参加させていただきましたが、体を自由に動かし、気持ちの動くまま表現されていて、感動しました。ありがとうございました。
- ・あっという間の3日間でした。参加者の皆さんとの素敵なエネルギーの中に入ることができて幸せでした。ありがとうございました。

[アートの巣箱の成果]

助成事業を通じて、地域で障がいのある方の芸術文化活動に関心を持つ人々が増え、参加者のコミュニティが拡大しました。プロジェクトに参加した障がいのある方と健常者が共同作業を行い、相互理解と連帯感を深める機会を提供しました。発表会やワークショップにおいて、参加者の表現力や自己肯定感が向上し、活動終了後には多くの成果を感じることができました。

[アートの巣箱の課題]

助成事業への関心は高いものの実際に実施すると、特に初めての方にとっては実施への不安や企画立案の難しさから躊躇があるように感じました。こうした方へは、より丁寧な支援が必要だと感じています。一方で、現在こうした表現活動に取り組んでらっしゃる団体にとってはこの助成は有効なようで、回数を重ねる中で高まりと広がりを感じました。次年度は、こうした団体向けに継続・発展を目的とした助成部門を作り、自立的な定着につなげていきたいと思ひます。



ウ 表現を楽しもうプロジェクト ～アーティストに会いにいった～

県内で表現活動に取り組んでいる障がいのある方の発掘や、障がいのあるアーティストの日々の様子、想いや作品の楽しさ、可能性を多くの人に知っていただくことを目的に、今年度は4名のアーティストに会いにいきました。アーティストの様子やインタビューの様子を動画撮影し、編集したものを広島県アートサポートセンターのYouTube番組で広く公開します。令和4年度に撮影した3名の動画も公開しました。



上村 福銖氏

アーティスト名：上村 福銖氏

【取材・撮影日】2024年2月8日(木)
【場所】コミュニティほっとスペースぼんぼん(広島市安佐南区)
【アーティストサポーター】鰐川 華衣
【インタビュアー】保田 香織
【ギャラリー】ぼんぼんのみなさん
【撮影・編集】映像クリエイター 金山 翔



藤井 将吾氏

アーティスト名：藤井 将吾氏

【取材・撮影日】2024年2月10日(土)
【場所】藤井 将吾氏 自宅(広島市佐伯区)
【アーティストサポーター】将吾さんのご両親
【インタビュアー】川口 隆司・保田 香織
【撮影・編集】映像クリエイター 金山 翔



大瀧 晴義氏

アーティスト名：大瀧 晴義氏

【取材・撮影日】2024年2月14日(水)
【場所】ニューライフ君田(三次市)
【アーティストサポーター】ニューライフ君田スタッフ横山さん
【インタビュアー】保田 香織
【撮影・編集】映像クリエイター 金山 翔

アーティスト名：清水 愛理氏

【取材・撮影日】2024年3月18日(月)
【場所】清水 愛理氏 自宅(広島市安佐南区)
【アーティストサポーター】愛理さんのお母さん
【インタビュアー】川口 隆司
【ギャラリー】愛理さんの愛犬もみじ、保田 香織
【撮影・編集】映像クリエイター 金山 翔



清水 愛理氏

配信場所：広島県アートサポートセンター YouTube チャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCRTeCPDoZ3o5RMgQTiHi8kA>

[成果]

チャンネル登録者数は多くないものの、昨年度制作した動画を含め、年間 405 件の視聴があり、毎月一定のアクセスがありました。視聴者からのフィードバックにより、障がいのある方々の表現活動に興味を持つ人々が存在することを知ると同時に、YouTube を通じて多くの方々にアーティストの存在を紹介できる有効な手段であることを実感しました。

また、出演くださったアーティストからもこの動画を通して連絡が止まっていた友人、知人から連絡がきたという話を聞くことができ嬉しく感じました。

[課題]

プロジェクトの実施において、撮影日数が限られており、それによって動画の内容を十分に検討する時間を確保することが難しい状況です。より充実したコンテンツを制作するために、撮影スケジュールや計画の見直しが必要と考えています。

動画の編集作業には予想以上の時間と労力が必要でした。編集プロセスの効率化や技術的な支援を検討し、より効果的な編集作業を実現するための手段を模索する必要があると感じています。

一部の視聴者からのフィードバックはあったものの、プロジェクトの配信が一面的であるため、視聴者からのフィードバックや感想を収集することが困難です。視聴者との対話や参加を促進するための方法を模索し、相互にコミュニケーションを図れる状態にしていければと考えています。

[課題]

イベントを通じて得た関係性をより深め、今後の活動につなげるためには、さらなる協力関係の構築や対話の機会が必要です。参加者とのコミュニケーションを促進するために、対話の機会やコミュニティの形成に向けた取り組みが必要だと感じています。



エ 人形劇「一寸法師とお楽しみ交流会」

聴覚に障がいのある方も含めたインクルーシブな舞台作品の鑑賞を通して、様々な人たちが協働することの楽しさや大切さを感じるとともに、非言語アプローチや多様な言語に関心を持つきっかけをつくること、イベント開催の際のバリアフリー環境についてヒントを得ることを目的に実施しました。

【実施日】2024年3月9日(土)

【場 所】広島マリーナホップ (広島市西区)

【内 容】デフ・パペットシアター・ひとみによる人形劇「一寸法師」とお楽しみ交流会

【参加人数】本人 21人 支援者 12人 一般 6人 合計 39人

主催：広島県

実施団体：広島県アートサポートセンター

後援：一般社団法人広島市ろうあ協会、社会福祉法人広島聴覚障害者福祉会、特定非営利活動法人広島県手話通訳問題研究会、広島県手話サークル連絡協議会



Q. お楽しみ会のプログラムのかんそうをおしえてください。 一部抜粋 原文のまま

- ・おもしろかった
- ・たのしかった。手話がよかった。
- ・がっきをさわってたのしかった。もっと人ぎょうをさわりたいかった。
- ・最後に子ども達に人形をさわせた事はよかったです。投げるより少し動きを教えたほうが良かったかも？ 泣く、悲しい、笑う、嬉しい、等
- ・楽器の紹介が興味深かったです。
- ・最後の紹介がわかりやすくてよかったです。
- ・またみたい。
- ・人形劇のステージにすいこまれそうなくらい楽しかったです。
- ・もりだくさんでもっと時間があってもよかったな～と思いました。
- ・新しい手話覚えてよかったです。楽器やセットも見れて楽しかったです。
- ・皆が楽しめた。

[成果]

イベントに参加した様々な団体との連携を強化し、新たな協力関係を築く機会を得ることができました。

イベントに参加した聞こえる子どもたちが、手話に興味を持ち、非言語的なコミュニケーションの重要性を理解するきっかけになりました。

手話付きのセリフや配慮された動きなど、多様な言語表現やニーズに対応した配慮が、参加者全員が楽しめるイベントをするポイントであることを感じました。

(4) 創作活動支援事業の実施

ア 文化芸術活動体験ワークショップ

表現することの楽しさを体験し、多様な表現があることを知り、それを楽しむ視点を感じ、学ぶことを目的にワークショップを実施しました。

「書道を楽しもう」

【実施日】2023年11月11日(土)

【場 所】広島市東区民文化センター 美術工芸室 (広島市東区)

【内 容】「書道」を楽しむワークショップ

【講 師】広島大学 大学院人間社会科学部 教授 教育学部 副学部長 松本 仁志 氏

【参加人数】本人4人 支援者5人 合計 9人

～アンケートより～(原文のまま)

Q. ワークショップで印象に残っていることや感想を教えてください。

- ・竹筆が使用してみたかったのでよかったです。作品を見ながら、先生が書き方を分析して下さり勉強になりました。
- ・自由に書くこと、じっくり、自分が書道をしたのは初めてだった為、とても刺激的でした。自分が書くことで、利用者様にもかいて楽しんでもらうきっかけになりそうです。
- ・いろんな筆、使って楽しかったです。
- ・普段使っていない筆で書けたので良かったです。特に竹筆がかすれも出て楽しかったです。色々な道具を見て発見がありました。

【成果】

参加者は書道の楽しさを体験し、様々な道具や技法を学ぶことができました。講師の指導により、作品を通じて書道の表現方法や技術について理解を深めることができました。

【課題】

相談で本人さんから創作する場を求める内容が増えおり、創作活動を行う場の必要性を感じています。このような創作する場が各地で定期的に行われることで、障がいのある方の表現活動が広がっていくと考えています。そのために、障がいのある方の表現活動に取り組んでいる、取り組みたいという思いがある団体のサポートを継続できる体制が必要と考えます。



体験ワークショップの様子▲

イ 障害福祉サービス事業所等への専門家派遣

これまで表現活動の経験があり、新しい体験や学びについて依頼があった施設・事業所への講師派遣、単発型(年1回)とこれから表現活動に取り組みたいという事業所1ヶ所に定期的に派遣する継続型と講師派遣方法を2つに分け、表現することの楽しさを体験し、多様な表現があることを知り、それを楽しむ視点を感じ、学ぶこと、サポーターの表現活動のサポート力を高めることを目的に実施しました。

専門家派遣 単発型 ①「書」を楽しもう

【実施日】2023年6月10日(土)

【場 所】西原 海さん自宅(黒瀬町)

【内 容】「書道」を楽しむワークショップ

【講 師】書家 高津 佳代子 氏

【参加人数】本人5人 支援者2人 合計 7人

専門家派遣 単発型 ②「作品展示について」の研修会

【実施日】2023年9月12日(火)

【場 所】社会福祉法人 静和会 大日学園(府中市)

【内 容】法人スタッフを対象とした「作品について」の研修会

【講 師】ギャラリーミヤウチ学芸員 今井 みはる 氏

【参加人数】支援者11人



専門家派遣②の様子▲

～アンケートより～(原文のまま)

Q. 勉強会で印象に残っていることや感想を教えてください。

- ・作品の仕分け方法によって、見え方・展示の仕方のバリエーションに違いがある事に気付かされました。
- ・初めて知る内容が多かったので色々な事を知る事が出来て良かった。
- ・目線の高さ、作品の間隔等初めての参加でドキドキでしたが、とても勉強になり楽しかったです。昨年度は勉強会や作品展の準備は全て参加できませんでしたから、参加出来て良かったです。
- ・壁面展示の基礎的な事を学ぶことが出来たのが良かったです。
- ・展示についての知識が全くなかったのが、全般でとても興味深く勉強になりました。



専門家派遣①の様子▲

専門家派遣 継続型

表現活動の体験の場づくりを目的に取り組みました。

【実施日】2023年11月10日(金)、24日、12月8日(金)、22日(金)、2024年1月26日(金)、
2月16日(金)、3月8日(金)、22日(金) 合計 8回

【場 所】就労継続支援かなで(東広島市)

【内 容】染め物、編み物、立体作品、スタンプング、ちぎり絵、簡単な額作りなど

【講 師】元特別支援学校教諭 細川 泉 氏

【参加人数】延べ 本人32人 スタッフ24人 合計 56人

～アンケートより～(原文のまま)

Q. 学びや印象に残っていることを教えてください。

- ・ひもで、ボールを作ってたこと。あと、ポチ袋、ちぎり絵とてもよかったです。
- ・毎回勉強になる事がありました。特に切り絵が枠作りを含めて楽しかったです。
- ・あーゆう事を長くやっていなかったの、特に楽しい時間でした。先生方が優しく指導してくださり、又親切でホントにありがたく感じました。又を楽しみにしています!!
- ・利用者さんの個性がしっかり出ていた。
- ・個人の新しい個性が見る事ができた。
- ・いつもと違う面が見れたこと。普段試す事があまりない、染色や毛糸の使い方等知れたこと

Q. 自分の気持ちの変化や周りの方の変化などがありましたら教えてください。

- ・皆凄い
- ・講習会を通じて周りの方とコミュニケーションが取れるようになりました。

[成果]

単発派遣については、依頼者の目的が明確であり、これまで連携があった方や施設だったので、取り組みがしやすく、定期的な創作の場作りの可能性に繋がったり、学びが展覧会開催の際に活かすことができました。

継続派遣については、創作する気持ちを高めることや講師との関係性をつくることに時間がかかりました。その過程で、創作の楽しさを実感し、創作を通じて他者との交流が深まることを体験した方もいらっしゃいましたので、創作活動の場の有効性を知っていききっかけになったと思います。

[課題]

ただ単に創作するだけではなく、心を通わせて共に創作を楽しむことが重要です。創作活動の意義を理解していただくまでには時間がかかることがあり、独自での活動の充実や活動の継続にはさらなる時間が必要と感じています。そのため、派遣後のフォロー体制についても検討しながら、サポートしていきたいと思っています。



専門家派遣 継続型の様子▲

(5) その他障害者文化活動の進行に資する事業

ア 文化芸術等への鑑賞に関する事業:アートと共生に関する調査および施策一体型プロジェクト(広島県、広島大学、広島県立美術館、広島県アートサポートセンター)

a. 遠隔ロボットを使った鑑賞サポート

障がいのある方が展覧会開催に主体的に参加できる機会が増えることを期待し、広島市と認定NPO ひゅーるぼん、アートサポーターが共催で行っている、展覧会「アート・ルネッサンス」会場にて、入選アーティストを対象に遠隔ロボットを使って、オープニングセレモニー参加や作品鑑賞のサポートを行いました。

【実施日】2023年9月23日(土祝)、9月30日(土)

【場 所】合人社ウエンディひと・まちプラザ(広島市中区)

【参加人数】本人9人 支援者2人 合計 11人

主催:広島県、広島大学、広島県アートサポートセンター

協力:広島支援機器研究会

【参加者の遠隔ロボットを使用した感想】

- ・映像がクリアで、音が少し途切れることがあったけどリアルに聞こえてよかったです。目線などの操作を覚えることでさらに見えるところが増えました。
- ・このロボットを使って、物理的に行くことが難しいコンサートなどにも行けるといいなと思います。

[成果]

遠方であることを理由に展覧会に行けない方々に、自分の作品や他の作品を鑑賞する機会を提供することができました。また、アーティスト自身が自分の作品を解説する機会をつくり、来場者と交流できる機会に繋げることができました。

[課題]

展覧会において、アーティスト自身が展覧会で挨拶や作品解説の場を設けることで、作品発表する場だけであった展覧会をより身近に感じ、さらに取り組みを継続していくことで、障がいのある方自身が主体的に参加できる場になると考えています。

ロボットを使つての鑑賞は、ロボット操作に慣れる時間や展覧会で安全面を見守る人員の存在が必要です。そのためには展覧会を開催するにあたり、十分な人員や時間の余裕が必要であると考えます。



遠隔ロボットを使った鑑賞サポートの様子・作品の解説をしています▲

b. 第3回みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会 ～美術館で作品を見よう～

昨年度に引き続き、公共の施設において、障がいのある方が参加可能な文化芸術活動の環境整備を検討することを目的に鑑賞会を実施しました。今回は美術作品（実物）を鑑賞する体験を積み重ねることを重視し、対面のみで実施しました。当日の鑑賞会がスムーズに進行されるよう、事前にオンラインにて顔合わせ会を行い、鑑賞会の流れや方法、当日呼んでもらいたい名前の確認を行いました。

【実施日】2024年2月24日（土）

【場 所】広島県立美術館 2階展示室（広島市中区）

【内 容】知的障がいのある方を対象にした対話型鑑賞会

【ファシリテーター】広島県立美術館 学芸員 森 万由子 氏

【参加人数】8人

主催：アートと共生に関する調査および施策一体型プロジェクト
（広島県、広島大学、広島県立美術館、広島県アートサポートセンター）



鑑賞会の感想やメッセージを書いてください。 原文のまま 一部抜粋

- いろんな絵がありました。
- 楽しかったのでまた参加したいです。
- 「宮古市・・・」（二つ目の作品）が良かった。女の人の髪の色がきれいだった。
- 二人のえのはくりよがかっこいいです。

[成果]

1回目の鑑賞会から継続して参加している方が数名おられ、楽しいイベントとして定着しつつあります。美術館もおしゃべりをするのもいい日として「フリートークデー」を設けてくださるようになり、静かに作品を見るのが難しい方でも参加しやすい環境がゆっくりではありますが整い始めています。

[課題]

鑑賞会を体験したことがない方にとっては、活動イメージが持ちにくいので、広報番組で鑑賞会の様子を伝えるなどの工夫をしました。今後も、こうした工夫を重ねていく必要を感じています。このプロジェクトのような、他機関との連携による取り組みは、今後の参考事例になると考えるため、この成果を活かしながら公共施設の更なる文化芸術活動の環境整備の拡大に努めたいと考えています。



c. 広島県立美術館紹介動画の制作

「みんなの美術館：広島県立美術館の多様で包摂的なアクセシビリティに向けて」をテーマに、劇場に所属する障がいがある方や、役者・支援者に出演いただき、美術館の魅力やアクセシビリティを紹介する動画の制作をしました。

長い動画は視聴しにくいという意見から、短い動画をシリーズ化して配信することになり、今年度ば美術館での作品鑑賞の基本：作品鑑賞のための基礎知識」を制作しました。

【撮影日】2023年12月4日（月）

【配信日】2024年4月中旬以降

【撮影場所】広島県立美術館（広島市中区）

【配信場所】広島県立美術館ホームページ

【内 容】美術館へのアクセスを促す紹介動画の制作

企画：アートと共生に関する調査および施策一体型プロジェクト
（広島県、広島大学、広島県立美術館、広島県アートサポートセンター）

協力：おきらく劇場ピロシマ

制作：株式会社 結 Movie



事前の顔合わせと、打ち合わせの様子

[成果]

事前の顔合わせや制作内容を協議する時間をしっかりとりました。説明や意見交換する場があったおかげで、当日の撮影をスムーズに進めることができました。また、たくさんの方に出演いただいたことで、多様な視点から美術館を利用するにあたっての配慮点を知ることができました。

[課題]

当初は、おしゃべり鑑賞会までに完成を目指していましたが、思っていたより、編集、修正に時間を要してしまいました。そのため、動画の活用についての検証ができなかったため、次年度の課題としたいと考えています。



イ 画材寄付プロジェクト

限られた予算で、創作活動をされている福祉施設・事業所がある現状を考え、画材寄付の募集を始めました。チラシの配布、ホームページ、SNSにて広報したことから、各地から画材提供をいただいています。

いただいた画材は、広島県内で必要とされている福祉施設・事業所へ配布したり、サポートセンターの事業で活用していく予定です。

●画材提供いただいた件数 8件



ウ ネットワーク構築

障がいのある人の表現活動をサポートしている人・団体が協力しあうことができる環境を整えること、地域に障がいのある方の表現活動を応援する人が増えることを目的に、展覧会やイベント、集いの場に参加し交流をしました。

a. のらのらの会

のらのらの会は、様々なバックグラウンドを持つ人々が集まり、年齢や業種、キャリアの垣根を越えて、共通の興味や感じたことを共有し、意見交換を行う場です。広島県内で別々に行われている活動やその方向性を共有し、従来の研修やセミナーでは得られない現場での経験を通じて学び合います。

① 社会福祉法人ひとは福祉会の視察と座談会

【実施日】2023年5月31日(水)

【場 所】社会福祉法人ひとは福祉会(安芸高田市)

【内 容】ひとはホーム、ひとは工房の視察と意見交換を含めた座談会

【参加者数】19人



② 鑑賞会と座談会

【実施日】2023年7月20日(木)

【場 所】ウッドワン美術館(廿日市市)

【内 容】企画展の鑑賞と意見交換を含めた座談会

【参加者数】8人



③ アート・ルネッサンスの展示作業と交流会

【実施日】2023年9月20日(水)

【場 所】ウェンディひと・まちプラザ(広島市中区)

【内 容】展覧会「アート・ルネッサンス」の展示作業と意見交換を含めた交流会

【参加者数】15人



④ 対話型鑑賞会と意見交換会

【実施日】2023年10月12日(木)

【場 所】広島市現代美術館(広島市南区)

【内 容】企画展作品をお題にした対話型鑑賞会と意見交換を含めた座談会

【参加者数】15人

⑤ 展覧会「ハナサクモリの冒険特別編～星とカラフル～」

【実施日】2024年1月25日(木)～1月30日(火)

【場 所】ぎやらりい宮郷(廿日市市)

【内 容】障がいのあるアーティスト(広島県12人、岡山県2人、三重県1人 計15人)の作品を展示した展覧会

【参加者数】本人4人 サポーター・関係者17人 合計 21人

主催:太田川学園

⑥ 広島県福山市、岡山県にある福祉施設・事業所の視察と交流会

【実施日】2024年3月4日(月)～3月6日(水)

【場 所】鞆の浦燧治、鞆の浦さくらホーム、ぬかつくるところ、ありがとうファーム、旭川荘(福山市・岡山県)

【内 容】鞆の浦さくらホーム、ぬかつくるところ、ありがとうファーム、旭川荘の視察と意見交換を含めた交流会

【参加者数】11人

主催:のらのらの会

協力:太田川学園、ひとは福祉会、友和の里、ほっとスペースぼんぼん、広島県知的障害者福祉協会事業部会 文化・芸術活動の部圏域委員会、art201、公益ウッドワン美術館、広島県アートサポートセンター

b. 特定非営利活動法人ワークショップ西風舎の音楽発表会の鑑賞

昨年度、中国・四国ブロック広域センターパスレルが実施したファーストステップ事業の助成先であった、ワークショップ西風舎様より、地域の小学校と目が見えないピアニストの方と一緒に交流会をすると案内をいただき、交流会「ちがいを認め合って、手をつなごう」の様子を拝見させていただきました。

昨年に比べ、地域の方の鑑賞者も増えており、音楽を楽しむとともに地域交流の場にもなっていました。

【実施日】2024年2月7日(水)

【場 所】己斐小学校(広島市西区)

【内 容】西風舎の通所者と地域の小学校と盲目のピアニストの交流会

c. 広島県知的障害者福祉協会 事業部会 文化・芸術活動の部圏域委員会の事例発表の参加

9つの事例が発表されました。事例のほとんどが、作品や制作に関する内容よりも、日常生活から見えるこだわりや行為を表現として捉えられた報告が多かったです。発表者も参加者も障がいのある方の芸術活動や行動をより深く理解し、彼らが持つ独自の視点や価値を尊重している様子が伺えました。

【実施日】2024年3月4日(月)

【場 所】鞆の浦燧治(福山市)

【内 容】広島県知的障害者福祉協会 事業部会 文化・芸術活動の部圏域委員会の事例発表

【参加人数】14人



a- ⑥ぬかつくるところ視察の様子▲

c 事例発表の様子▲

(6) その他協力依頼対応

ア あいサポートアート展

展示作業、期間中の受付、撤収作業を行いました。

【実施日】 広島会場：2023年10月31日(火曜日) から11月5日(日曜日)

福山会場：2023年11月28日(火曜日) から12月3日(日曜日)

【場 所】 広島会場：広島県立美術館(広島市中区)

福山会場：ふくやま美術館(福山市)

主催：広島県

※福山会場における開催については、福山市との共催



イ 第21回広島アビリンピック～障がいのあるアーティストによる作品展示

【実施日】 2024年1月6日(土)

【場 所】 ポリテクセンター広島(広島市中区)

【内 容】 広島県内の展覧会で活動している障がいのあるアーティスト12名と特別支援学校(1校)の生徒さんの作品展示

主 催：独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構広島支部、広島県

後援：広島労働局 広島市

協 賛：ANAクラウンプラザホテル広島、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社広島支店、株式会社アンデルセンサービス、グランドプリンスホテル広島、株式会社経済レポート、株式会社巣だち、株式会社ナガ・ツキ、株式会社ニシキプリント、ひろぎんビジネスサービス株式会社、株式会社広島情報シンフォニー、公益社団法人広島ビルメンテナンス協会、株式会社フレスタ、ホテルグランヴィア広島

展示協力：認定NPO法人ひゅーるぼん、広島県アートサポートセンター



広島アビリンピックでの作品展示の様子▲

ウ おきらく劇場ピロシマ

実施のサポートと、福祉的視点でのアドバイス対応を行いました。

a おきらく劇場ピロシマ 演劇クラブ

【実施日】 ① 2023年6月25日(日) ② 2023年8月27日(日) ③ 2023年10月22日(日) ④ 2023年12月17日(日)

⑤ 2024年2月25日(日) ⑥ 2024年3月10日(日)

【場 所】 ①②③④ 広島市中央公民館(広島市中区) ⑤⑥ 三篠公民館(広島市西区)

【内 容】 演劇の手法を使った表現ゲームや、チームでの演劇作品創作の体験

主催：一般社団法人舞台芸術制作室無色透明

協力：認定NPO法人ひゅーるぼん、アートサポートセンターひゅるる

後援：広島県

b ゆかいに共生ゆーとぴあ企画 おきらく劇場ピロシマによる演劇公演

『まいるまいるまいる』

【実施日】 2024年1月13日(土)～14日(日)

【場 所】 WAKO ゲバントホール(広島市中区)

【内 容】 障がいの有無に関係なく誰でも一緒に演劇を楽しめる劇団「おきらく劇場ピロシマ」による演劇公演

主催：一般社団法人舞台芸術制作室無色透明

協力：認定NPO法人ひゅーるぼん、広島県アートサポートセンター、烏丸ストロークロック、医療法人社団友和会

後援：公益財団法人ひろしま文化振興財団

協賛：合同会社 kitaya505、ラボチ、合同会社 nochi、大体 2mm
経済産業省コンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金(ライブエンタメ産業の基盤強化支援)
JLOX 補助事業



おきらく劇場ピロシマによる演劇公演の様子▲

(7) 相 談

相談等への対応

障がいのある方の表現活動にかかわる悩みや相談事が解決されることを目指し、相談対応を行いました。

a. 随時受付

【受付方法】対面・電話・メール・Fax・ホームページ

b. あいサポートアート展の期間中にアート相談窓口を設置

【開設日】① 2023年10月31日(火) ② 2023年12月2日(土)

【場 所】①広島県立美術館 ②ふくやま美術館

【内 容】対面・電話・メール・Fax・ホームページでの相談対応。あいサポートアート展の会場にてアート相談窓口を設置し、アドバイザーが相談対応を行う。

主 催：広島県

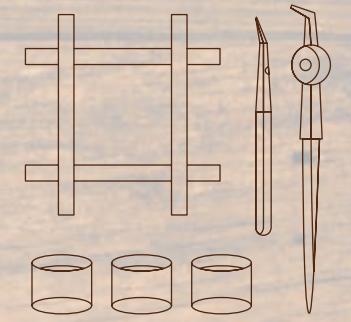
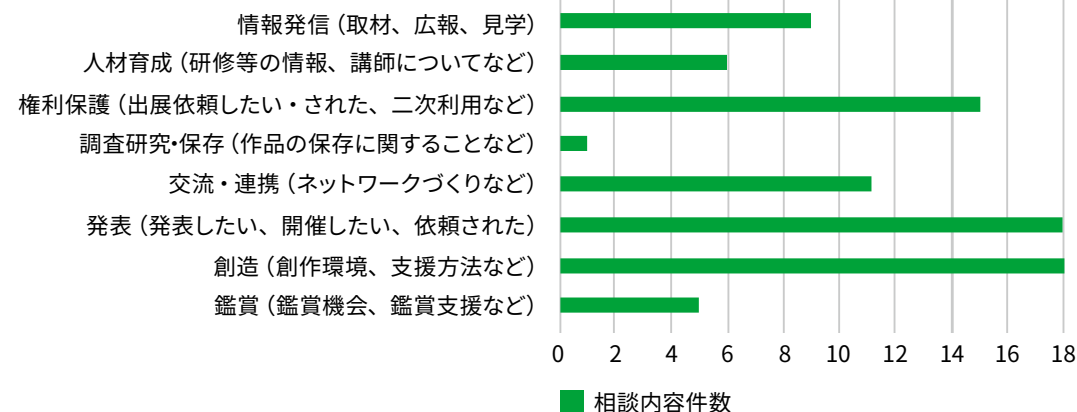
実施団体：広島県アートサポートセンター

●新規相談件数内訳(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

相談者	相談件数	主な相談内容
本人(当事者)	22	表現活動がしたい 発表したい
家 族	8	表現活動の場について
障害者福祉関係 (障害福祉サービス事業者、当事者団体等)	17	表現活動の場について ネットワーク構築について
文化施設 (美術館、博物館、劇場、ホール、ギャラリー等)	3	鑑賞支援について
芸術家・文化団体・文化関係者	7	鑑賞支援について ネットワーク構築について
市民団体 (サークル、クラブ活動等)	1	権利保護について
教育関係者	3	創作支援について 発表の場について
医療機関	1	ネットワーク構築について
自治体	3	情報発信について
企 業	5	作品の二次利用
その他 (報道関係等)	13	取材について
合 計	83件	継続対応回数401回



相談分類件数



対応事例①

【相談者】本人(当事者)

【相談分類】発表(発表したい、開催したい、依頼された)

【相談内容】県内の展覧会に応募したい。作品をどのように応募していいのかわからない。教えて欲しい。

【対 応】遠方のため、電話で対応。応募要項の内容を読み解き、応募の準備を一つずつ進めていった。その間何度もデータ保存や質問連絡があり、その都度対応し、無事作品応募に至った。

【その後】作品入選後は、作品の梱包や郵送方法なども手順を追って説明を行い、無事展覧会で作品展示を行うことができた。

対応事例②

【相談者】家族

【相談分類】創造(創作環境、支援方法等)

【相談内容】多動な子どもも参加できる創作活動の場所があれば教えて欲しい。

【対 応】地域のアート教室を紹介したが、習い事として参加することが難しかったため、対応事例③の情報を提供→対応事例③のカフェに参加し、お絵描きをして過ごした。

対応事例③

【相談者】障がい福祉関係者(障害福祉サービス事業者、当事者団体等)

【相談分類】交流・連携(ネットワークづくりなど)

【相談内容】相談事業所で月に1回サロンを兼ねたカフェを行っているが人が集まらない。何か目的があると集まりやすいと思うので、創作できるスペースをつくりたい。協力して欲しい。

【対 応】カフェに訪問。まずは、簡単な画材や材料を用意して、参加者の様子を見ながら環境を整えていくことになった→「創作の場について」の相談者にカフェの情報提供→対応事例②の方が参加されるようになった。

【対応事例②③のその後】お互いのニーズがうまくマッチングすることができ、創作環境を整えている状態です。環境を整えるとともに、対応事例③の参加者が増えるようにサポートしていきたいと思えます。

[成果]

以前よりも相談者の幅が広がり始めています。昨年度に引き続き、障がいのある方からの相談が増えており、アートサポートセンターの存在が広がっていると感じています。

専門家や様々な経験をお持ちの方にも協力いただきながら、相談解決に向けて取り組むことができました。

[課題]

情報不足やリサーチ不足もあり、解決までに至らないケースが蓄積される相談もあります。また、個人からの相談が増えてきており、それぞれのニーズに適切に対応するためには、より多くの情報や資源が必要です。また、対応事例③のように、参加者が集まりにくい場合には、より魅力的なプログラムやアクティビティの提供が求められるかもしれません。このような課題に対処するためには、情報の収集や提供方法の改善、さらなるネットワークの拡大が必要になると考えます。

一年を振り返って(総括)

5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し対面での活動が再開されたことを多くの方がよろこびました。その一方で、主に福祉施設では外部イベントへの参加が依然として困難な状況が続いていると感じました。そのため、セミナーやワークショップの参加者募集に苦戦することもありました。

それでも、少人数での活動を通じて、個々の意見を丁寧に聞き取り、表現活動に対する考え方を共有する貴重な機会となりました。この関係性をきっかけに、ネットワークが広がり、さらなる関係性の強化が図られました。

また、YouTube 配信の開始により、新たなつながりが生まれる可能性を感じました。

このような関係の中で、障がいの有無にかかわらず、誰もが文化芸術を楽しむ機会が一步前進したと考えています。

今後は、より多くの外部イベントやコラボレーションにも参加し、さらに連携を深めていきたいと考えています。また、オンラインプラットフォームを活用して、より多くの人々に障がいのある方の表現活動の魅力を発信し、参加の機会を提供していきたいと考えています。

障がいのある方々の声やニーズに耳を傾けながら、より包括的で柔軟な支援体制を構築し、誰もが表現活動を通じて自己表現を楽しむことができる環境を整えていきたいと思えます。

最後に、本事業の実施にあたり、ご支援ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。



令和5年度 広島県障害者文化芸術活動支援事業報告書
広島県アートサポートセンター

〈編集〉広島県アートサポートセンター
〒731-0102 広島県広島市安佐南区川内6丁目28-15
認定NPO法人ひゅーるぼん内
TEL 070-5671-8668 FAX 082-831-6889
MAIL hululu@hullpong.jp URL <https://hululu.jp>

〈デザイン〉株式会社アームス
〈発行日〉2024年3月

